



平成 20 年 8 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社ココカラファイン ホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 塚本 厚志
 (コード番号 3098 東証第1部)
 問合せ先 取締役経営管理本部長 鈴木 芳孝
 (TEL 042-368-8746)

(訂正・数値データ訂正あり)「平成 21 年 3 月期 第 1 四半期決算短信」の一部訂正について

平成 20 年 7 月 29 日に公表いたしました「平成 21 年 3 月期 第 1 四半期決算短信」について、一部訂正がありましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

【訂正理由】

企業結合にかかるのれんの計上額に訂正がございましたので、以下【訂正箇所】のとおり訂正させていただきます。

【訂正箇所】

訂正内容は下線を付して表示しております。

1. 「サマリー情報 1. 平成 21 年 3 月期第 1 四半期の連結業績 (平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 6 月 30 日)
 (1) 連結経営成績 (累計) (1 ページ)

(訂正前)

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		四 半 期 純 利 益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21 年 3 月期第 1 四半期	39,566	(-)	858	(-)	<u>1,639</u>	(-)	810	(-)
20 年 3 月期第 1 四半期	—	(-)	—	(-)	—	(-)	—	(-)

	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益		潜 在 株 式 調 整 後 1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益	
	円	銭	円	銭
21 年 3 月期第 1 四半期	40	69	—	—
20 年 3 月期第 1 四半期	—	—	—	—

(訂正後)

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		四 半 期 純 利 益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21 年 3 月期第 1 四半期	39,566	(-)	<u>846</u>	(-)	<u>1,621</u>	(-)	<u>869</u>	(-)
20 年 3 月期第 1 四半期	—	(-)	—	(-)	—	(-)	—	(-)

	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益		潜 在 株 式 調 整 後 1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益	
	円	銭	円	銭
21 年 3 月期第 1 四半期	43	66	—	—
20 年 3 月期第 1 四半期	—	—	—	—

2. 「サマリー情報 1. 平成 21 年 3 月期第 1 四半期の連結業績（平成 20 年 4 月 1 日 ～ 平成 20 年 6 月 30 日）
 (2) 連結財政状態」（1 ページ）

(訂正前)

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
21年3月期第1四半期	73,877	39,703	53.7	1,992	94
20年3月期	—	—	—	—	—

(参考) 自己資本 21年3月期第1四半期 39,704百万円 20年3月期第1四半期 — 百万円

(訂正後)

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
21年3月期第1四半期	73,881	39,833	53.9	2,000	13
20年3月期	—	—	—	—	—

(参考) 自己資本 21年3月期第1四半期 39,833百万円 20年3月期第1四半期 — 百万円

3. 「サマリー情報 4. その他(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」（1 ページ）

(訂正前)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(訂正後)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

4. 「サマリー情報 4. その他(4) 発行済株式数（普通株式）」（1 ページ）

(訂正前)

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	21年3月期第1四半期	19,922,156株	20年3月期	—株
② 期末自己株式数	21年3月期第1四半期	6,565株	20年3月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期連結累計期間）	21年3月期第1四半期	19,917,270株	20年3月期第1四半期	—株

(訂正後)

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	21年3月期第1四半期	19,922,156株	20年3月期	—株
② 期末自己株式数	21年3月期第1四半期	6,564株	20年3月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期連結累計期間）	21年3月期第1四半期	19,917,896株	20年3月期第1四半期	—株

5. 「【定性的情報・財務諸表等】 1. 連結経営成績に関する定性的情報」(2ページ)

(訂正前)

当第1四半期におけるわが国の経済は、サブプライムローン問題による株価下落、原油高、原材料のコスト高により、製造業を中心として堅調であった企業収益に陰りが見えてまいりました。スタグフレーションの兆しの中、小売業におきましても、ガソリンや食料品を中心とした値上げラッシュなどによる先行き不安から、消費者心理が萎縮しはじめております。

さらにドラッグストア業界におきましては、オーバーストア現象(商圈下、需要より供給が過剰になるほど店舗数が増加する現象)等により、価格競争が激しさを増し、厳しい状況が続いております。M&Aや資本・業務提携等の業界再編が加速される中、生き残りのため企業独自の差異化戦略が必要不可欠になってまいりました。

このような状況下、セガミメディクス株式会社(以下「セガミ」という)及び株式会社セイジョー(以下「セイジョー」という)は、今後急速に移行するセルフメディケーション(自身の健康は自らが守る)時代に社会貢献しうる企業として、事業規模・質ともに最適化することを目的に、平成20年4月1日経営統合し、株式会社ココカラファインホールディングス(以下「ココカラファインHD」という)を設立いたしました。

統合後の活動実績といたしましては、商品施策運営の統一を行なうため、セガミ・セイジョー両事業会社の仕入部門をココカラファインHDへ一本化した運営を開始し、商品販売戦略の強化を推進しております。また、管理部門におきましても会計システムを平成20年4月1日より統一化したほか、両社のシステム環境を評価し、次世代に向けた情報システム等、経営管理に関わる様々な事項にも着手しております。また、新規出店はセガミ・セイジョー両事業会社合算して10店舗を出店し、不採算店11店舗を閉店いたしました。この結果、当該四半期末の店舗数は以下のとおり625店舗(内調剤取扱111店舗)となりました。

(単位:店)

	セガミ	セイジョー	合計
期首店舗数 (内調剤取扱)	355 (61)	271 (48)	626 (109)
出店 (内調剤取扱)	6 (1)	4 (1)	10 (2)
閉店 (内調剤取扱)	6 —	5 —	11 —
第1四半期末店舗数 (内調剤取扱)	355 (62)	270 (49)	625 (111)

個人消費の陰りや関東・九州における長雨等天候不順の影響を受けましたが、経営統合により地域別に互いを補完し合う効果と相俟って、当第1四半期の連結業績は、売上高39,566百万円、営業利益858百万円、経常利益1,639百万円、四半期純利益810百万円となりました。

(訂正後)

当第1四半期におけるわが国の経済は、サブプライムローン問題による株価下落、原油高、原材料のコスト高により、製造業を中心として堅調であった企業収益に陰りが見えてまいりました。スタグフレーションの兆しの中、小売業におきましても、ガソリンや食料品を中心とした値上げラッシュなどによる先行き不安から、消費者心理が萎縮はじめております。

さらにドラッグストア業界におきましては、オーバーストア現象（商圈下、需要より供給が過剰になるほど店舗数が増加する現象）等により、価格競争が激しさを増し、厳しい状況が続いております。M & Aや資本・業務提携等の業界再編が加速される中、生き残りのため企業独自の差異化戦略が必要不可欠になってまいりました。

このような状況下、セガミメディクス株式会社（以下「セガミ」という）及び株式会社セイジョー（以下「セイジョー」という）は、今後急速に移行するセルフメディケーション（自身の健康は自らが守る）時代に社会貢献しうる企業として、事業規模・質ともに最適化することを目的に、平成20年4月1日経営統合し、株式会社ココカラファインホールディングス（以下「ココカラファインHD」という）を設立いたしました。

統合後の活動実績といたしましては、商品施策運営の統一を行なうため、セガミ・セイジョー両事業会社の仕入部門をココカラファインHDへ一本化した運営を開始し、商品販売戦略の強化を推進しております。また、管理部門におきましても会計システムを平成20年4月1日より統一化したほか、両社のシステム環境を評価し、次世代に向けた情報システム等、経営管理に関わる様々な事項にも着手しております。また、新規出店はセガミ・セイジョー両事業会社合算して10店舗を出店し、不採算店11店舗を閉店いたしました。この結果、当該四半期末の店舗数は以下のとおり625店舗（内調剤取扱111店舗）となりました。

(単位：店)

	セガミ	セイジョー	合計
期首店舗数 (内調剤取扱)	355 (61)	271 (48)	626 (109)
出店 (内調剤取扱)	6 (1)	4 (1)	10 (2)
閉店 (内調剤取扱)	6 —	5 —	11 —
第1四半期末店舗数 (内調剤取扱)	355 (62)	270 (49)	625 (111)

個人消費の陰りや関東・九州における長雨等天候不順の影響を受けましたが、経営統合により地域別に互いを補完し合う効果と相俟って、当第1四半期の連結業績は、売上高 39,566 百万円、営業利益 846 百万円、経常利益 1,621 百万円、四半期純利益 869 百万円となりました。

6. 「【定性的情報・財務諸表等】 2. 連結財政状態に関する定性的情報」(2ページ)

(訂正前)

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期末の総資産は、73,877百万円でしたが、そのうち流動資産は、38,353百万円、固定資産は35,523百万円となりました。これに対する当第1四半期末の負債合計は、34,173百万円でしたが、そのうち流動負債は25,558百万円、固定負債は8,614百万円となりました。

当第1四半期末の純資産は、39,703百万円で、自己資本比率は53.7%となりました。また、1株当たり純資産は1,992円94銭となりました。

なお、当社グループは、平成20年4月1日設立のため、前連結会計年度末との対比の記載はしていません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は 9,795百万円となりました。

当第1四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金は、503百万円の増加となりました。

これは、税金等調整前四半期純利益が 1,352百万円に対して、主な増加要因として非資金費用である減価償却費の計上が 487百万円、引当金の増加が 388百万円等があったものの、減少要因として棚卸資産の増加が 467百万円、法人税等の支払額が 1,488百万円あったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金は、△762百万円の減少となりました。

これは主として有形固定資産の取得による支出 483百万円、敷金・保証金等の増加による支出(収入差引後)が 139百万円等があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金は、663百万円の減少となりました。

これは主として配当金の支払額 653百万円等によるものであります。

(訂正後)

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期末の総資産は、73,881百万円でしたが、そのうち流動資産は、38,343百万円、固定資産は35,538百万円となりました。これに対する当第1四半期末の負債合計は、34,047百万円でしたが、そのうち流動負債は25,558百万円、固定負債は8,488百万円となりました。

当第1四半期末の純資産は、39,833百万円で、自己資本比率は53.9%となりました。また、1株当たり純資産は2,000円13銭となりました。

なお、当社グループは、平成20年4月1日設立のため、前連結会計年度末との対比の記載はしていません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は 10,295百万円となりました。

当第1四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は、503百万円となりました。

これは、税金等調整前四半期純利益が 1,379百万円に対して、主な増加要因として非資金費用である減価償却費の計上が 488百万円、引当金の増加が 377百万円等があったものの、減少要因として棚卸資産の増加が 467百万円、法人税等の支払額が 1,488百万円あったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、262百万円となりました。

これは主として有形固定資産の取得による支出 483 百万円、敷金・保証金等の増加による支出（収入差引後）が 139 百万円等があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、663百万円となりました。

これは主として配当金の支払額 653 百万円等によるものであります。

7. 【定性的情報・財務諸表等】 5. 四半期連結財務諸表(1) 四半期連結貸借対照表」(4 ページ)

(訂正前)

(百万円)

		当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金		<u>9,528</u>
売掛金		3,085
有価証券		800
商品		<u>20,156</u>
その他		<u>4,786</u>
貸倒引当金		△3
流動資産合計		<u>38,353</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物		7,563
土地		9,080
その他		1,519
有形固定資産合計		<u>18,163</u>
無形固定資産		
のれん		447
その他		1,272
無形固定資産合計		<u>1,719</u>
投資その他の資産		
敷金及び差入保証金		13,322
その他		<u>2,520</u>
貸倒引当金		△201
投資その他の資産合計		<u>15,640</u>
固定資産合計		<u>35,523</u>
資産合計		<u>73,877</u>

(百万円)

当第1四半期連結会計期間末
(平成20年6月30日)

負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	16,782
短期借入金	1,200
一年以内償還予定の社債	120
未払法人税等	589
賞与引当金	344
役員賞与引当金	9
ポイント引当金	764
その他	5,747
流動負債合計	25,558
固定負債	
社債	10
退職給付引当金	2,233
負ののれん	5,679
その他	691
固定負債合計	8,614
負債合計	34,173
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,000
資本剰余金	38,547
利益剰余金	136
自己株式	△12
株主資本合計	39,671
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	31
評価・換算差額等合計	31
純資産合計	39,703
負債純資産合計	73,877

(訂正後)

(百万円)

当第1四半期連結会計期間末
(平成20年6月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	9,518
売掛金	3,085
有価証券	800
商品	20,144
その他	4,798
貸倒引当金	△3
流動資産合計	38,343
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	7,563
土地	9,080
その他(純額)	1,519
有形固定資産合計	18,163
無形固定資産	
のれん	447
その他	1,272
無形固定資産合計	1,719
投資その他の資産	
敷金及び差入保証金	13,322
その他	2,534
貸倒引当金	△201
投資その他の資産合計	15,655
固定資産合計	35,538
資産合計	73,881

(百万円)

当第1四半期連結会計期間末
(平成20年6月30日)

負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	16,782
短期借入金	1,200
一年以内償還予定の社債	120
未払法人税等	589
賞与引当金	344
ポイント引当金	764
その他	<u>5,757</u>
流動負債合計	<u>25,558</u>
固定負債	
社債	10
退職給付引当金	<u>2,243</u>
負ののれん	<u>5,543</u>
その他	691
固定負債合計	<u>8,488</u>
負債合計	<u>34,047</u>
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,000
資本剰余金	<u>24,981</u>
利益剰余金	<u>13,743</u>
自己株式	<u>△12</u>
株主資本合計	<u>39,711</u>
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	<u>121</u>
評価・換算差額等合計	<u>121</u>
純資産合計	<u>39,833</u>
負債純資産合計	<u>73,881</u>

8. 【定性的情報・財務諸表等】 5. 四半期連結財務諸表(2) 四半期連結損益計算書(6ページ)

(訂正前)

(百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)
売上高	39,566
売上原価	28,321
売上総利益	11,245
販売費及び一般管理費	10,386
営業利益	858
営業外収益	
負ののれんの償却額	298
その他	544
営業外収益合計	843
営業外費用	
貸倒引当金繰入額	13
上場関連費用	21
その他	26
営業外費用合計	61
経常利益	1,639
特別利益	
貸倒引当金戻入益	1
ゴルフ会員権売却益	0
特別利益合計	1
特別損失	
固定資産除却損	41
店舗閉鎖費用	19
店舗賃借解約損	65
減損損失	43
過年度ポイント引当金繰入額	63
その他	54
特別損失合計	288
税金等調整前四半期純利益	1,352
法人税、住民税及び事業税	542
四半期純利益	810

(訂正後)

(百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)
売上高	39,566
売上原価	28,321
売上総利益	11,245
販売費及び一般管理費	10,398
営業利益	846
営業外収益	
負ののれんの償却額	291
その他	544
営業外収益合計	836
営業外費用	
貸倒引当金繰入額	13
上場関連費用	21
その他	26
営業外費用合計	61
経常利益	1,621
特別利益	
貸倒引当金戻入益	1
ゴルフ会員権売却益	0
特別利益合計	1
特別損失	
固定資産除却損	41
店舗閉鎖費用	19
店舗賃借解約損	65
減損損失	43
過年度ポイント引当金繰入額	63
その他	9
特別損失合計	243
税金等調整前四半期純利益	1,379
法人税等	510
四半期純利益	869

9. 【定性的情報・財務諸表等】 5. 四半期連結財務諸表(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (7ページ)

(訂正前)

(百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	1,352
減価償却費	487
減損損失	43
のれん及び負のれんの償却額	△278
引当金の減少額	△388
受取利息及び受取配当金	△14
支払利息	4
器具・備品受贈益	△50
固定資産除却損	41
店舗閉鎖費用等	84
売上債権の減少額	122
たな卸資産の増加額	△467
仕入債務の減少額	△164
その他	1,209
小計	1,984
利息及び配当金の受取額	8
利息の支払額	△1
法人税等の支払額	△1,488
営業活動によるキャッシュ・フロー	503
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△500
定期預金の払い戻しによる収入	500
有形固定資産の取得による支出	△483
敷金・保証金等の増加による支出	△252
敷金・保証金等の減少による収入	113
その他	△140
投資活動によるキャッシュ・フロー	△762
財務活動によるキャッシュ・フロー	
社債償還による支出	△10
配当金の支払額	△653
財務活動によるキャッシュ・フロー	△663
現金及び現金同等物の減少額	△922
現金及び現金同等物の期首残高	3,097
株式移転による現金及び現金同等物の増加額	7,620
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,795

(訂正後)

(百万円)

当第1四半期連結累計期間
(自 平成20年4月1日
至 平成20年6月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	1,379
減価償却費	488
減損損失	43
のれん及び負ののれんの償却額	△270
引当金の減少額	△377
受取利息及び受取配当金	△14
支払利息	4
器具・備品受贈益	△50
固定資産除却損	41
店舗閉鎖費用等	84
売上債権の減少額	122
たな卸資産の増加額	△467
仕入債務の減少額	△164
その他	1,164
小計	1,984
利息及び配当金の受取額	8
利息の支払額	△1
法人税等の支払額	△1,488
営業活動によるキャッシュ・フロー	503
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の払い戻しによる収入	500
有形固定資産の取得による支出	△483
敷金・保証金等の増加による支出	△252
敷金・保証金等の減少による収入	113
その他	△140
投資活動によるキャッシュ・フロー	△262
財務活動によるキャッシュ・フロー	
社債償還による支出	△10
配当金の支払額	△653
財務活動によるキャッシュ・フロー	△663
現金及び現金同等物の減少額	△422
現金及び現金同等物の期首残高	3,097
株式移転による現金及び現金同等物の増加額	7,620
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,295

9. 「【定性的情報・財務諸表等】 5. 四半期連結財務諸表(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記」(8ページ)

(訂正前)

(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前期末残高	3,958	4,315	13,547	△0	21,820
当第1四半期末までの変動額					
株式移転による変動額	△2,958	<u>34,231</u>	<u>△13,548</u>		<u>17,725</u>
剰余金の配当			△673		△673
四半期純利益			<u>810</u>		<u>810</u>
自己株式の取得				△11	△11
当第1四半期末までの変動額合計	△2,958	<u>34,231</u>	<u>△13,411</u>	△11	<u>17,852</u>
当第1四半期末残高	1,000	<u>38,547</u>	<u>136</u>	△12	<u>39,671</u>

(訂正後)

(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前期末残高	3,958	4,315	13,547	△0	21,820
当第1四半期末までの変動額					
株式移転による変動額	△2,958	<u>20,665</u>	<u>_____</u>		<u>17,707</u>
剰余金の配当			△673		△673
四半期純利益			<u>869</u>		<u>869</u>
自己株式の取得				△11	△11
当第1四半期末までの変動額合計	△2,958	<u>20,665</u>	<u>195</u>	△11	<u>17,891</u>
当第1四半期末残高	1,000	<u>24,781</u>	<u>13,743</u>	△12	<u>39,711</u>

平成21年3月期 第1四半期決算短信

平成20年7月29日

上場会社名 株式会社 ココカラファイン ホールディングス
 コード番号 3098 URL <http://www.cocokarafine.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚本 厚志
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 鈴木 芳孝
 四半期報告書提出予定日 平成20年8月14日

上場取引所 東

TEL 042-368-8746

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第1四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第1四半期	39,566	—	846	—	1,621	—	869	—
20年3月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第1四半期	43.66	—
20年3月期第1四半期	—	—

(注) 当社グループは、平成20年4月1日設立のため、前年同四半期の数字及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
21年3月期第1四半期	73,881	—	39,833	—	53.9	—	2,000.13	
20年3月期	—	—	—	—	—	—	—	

(参考) 自己資本 21年3月期第1四半期 39,833百万円 20年3月期 一百万円

(注) 当社は、平成20年4月1日に(株)セイジョーとセガミメディクス(株)が経営統合し、両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。四半期短信は、当四半期連結会計期間より作成しておりますので、前期実績及び対前期増減率は記載しておりません。

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
20年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	50.00	50.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	169,000	—	7,400	—	9,500	—	5,400	—	—

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

新規 一社(社名) 除外 一社(社名)

当社は、平成20年4月1日に(株)セイジョーとセガミメディクス(株)が経営統合し両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。四半期短信は、当四半期連結会計期間より作成しておりますので、「期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)」は記載しておりません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は3ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

当社は、平成20年4月1日に(株)セイジョーとセガミメディクス(株)が経営統合し両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。四半期短信は、当四半期連結会計期間より作成しておりますので、「四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの」は記載しておりません。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年3月期第1四半期	19,922,156株	20年3月期	—株
② 期末自己株式数	21年3月期第1四半期	6,564株	20年3月期	—株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	21年3月期第1四半期	19,917,896株	20年3月期第1四半期	—株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い「四半期連結財務諸表」を作成しております。

・業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国の経済は、サブプライムローン問題による株価下落、原油高、原材料のコスト高により、製造業を中心として堅調であった企業収益に陰りが見えてまいりました。スタグフレーションの兆しの中、小売業におきましても、ガソリンや食料品を中心とした値上げラッシュなどによる先行き不安から、消費者心理が萎縮しはじめております。

さらにドラッグストア業界におきましては、オーバーストア現象（商圈下、需要より供給が過剰になるほど店舗数が増加する現象）等により、価格競争が激しさを増し、厳しい状況が続いております。M & Aや資本・業務提携等の業界再編が加速される中、生き残りのため企業独自の差異化戦略が必要不可欠になってまいりました。

このような状況下、セガミメディクス株式会社（以下「セガミ」という）及び株式会社セイジョー（以下「セイジョー」という）は、今後急速に移行するセルフメディケーション（自身の健康は自らが守る）時代に社会貢献しうる企業として、事業規模・質ともに最適化することを目的に、平成20年4月1日経営統合し、株式会社ココカラファイン ホールディングス（以下「ココカラファインHD」という）を設立いたしました。

統合後の活動実績といたしましては、商品施策運営の統一を行なうため、セガミ・セイジョー両事業会社の仕入部門をココカラファインHDへ一本化した運営を開始し、商品販売戦略の強化を推進しております。また、管理部門におきましても会計システムを平成20年4月1日より統一化したほか、両社のシステム環境を評価し、次世代に向けた情報システム等、経営管理に関わる様々な事項にも着手しております。また、新規出店はセガミ・セイジョー両事業会社合算して10店舗を出店し、不採算店11店舗を閉店いたしました。この結果、当該四半期末の店舗数は以下のとおり625店舗（内調剤取扱111店舗）となりました。

(単位：店)

	セガミ	セイジョー	合計
期首店舗数	355	271	626
(内調剤取扱)	(61)	(48)	(109)
出店	6	4	10
(内調剤取扱)	(1)	(1)	(2)
閉店	6	5	11
(内調剤取扱)	—	—	—
第1四半期末店舗数	355	270	625
(内調剤取扱)	(62)	(49)	(111)

個人消費の陰りや関東・九州における長雨等天候不順の影響を受けましたが、経営統合により地域別に互いを補完し合う効果と相俟って、当第1四半期の連結業績は、売上高39,566百万円、営業利益846百万円、経常利益1,621百万円、四半期純利益869百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期末の総資産は、73,881百万円でしたが、そのうち流動資産は、38,343百万円、固定資産は35,538百万円となりました。これに対する当第1四半期末の負債合計は、34,047百万円でしたが、そのうち流動負債は25,558百万円、固定負債は8,488百万円となりました。

当第1四半期末の純資産は、39,833百万円で、自己資本比率は53.9%となりました。また、1株当たり純資産は2,000円13銭となりました。

なお、当社グループは、平成20年4月1日設立のため、前連結会計年度末との対比の記載はしていません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は10,295百万円となりました。

当第1四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は、503百万円となりました。

これは、税金等調整前四半期純利益が1,379百万円に対して、主な増加要因として非資金費用である減価償却費の計上が488百万円、引当金の増加が377百万円等があったものの、減少要因として棚卸資産の増加が467百万円、法人税等の支払額が1,488百万円あったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、262百万円となりました。

これは主として有形固定資産の取得による支出483百万円、敷金・保証金等の増加による支出（収入差引後）が139百万円等があったこと等によるものであります。

(財務活動によりキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、663百万円となりました。

これは主として配当金の支払額653百万円等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成20年4月1日付け「平成21年3月期の業績予想について」にて公表した業績予想につきましては変更ありません。

4. その他

(1) 会計処理の方法における簡便な方法の採用 : 有

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率が連結会社各社前期末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、連結会社各社の前会計年度末の貸倒実績率等を利用して貸倒見積高を算定しております。

②棚卸資産の評価方法

当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算定に関しては、実地棚卸を省略し、連結会社各社の前期の実地棚卸高を基礎として合理的な方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切り下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積もり、簿価切り下げを行う方法によっております。

③固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

④税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

5. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(百万円)

		当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金		9,518
売掛金		3,085
有価証券		800
商品		20,144
その他		4,798
貸倒引当金		△3
流動資産合計		38,343
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)		7,563
土地		9,080
その他(純額)		1,519
有形固定資産合計		18,163
無形固定資産		
のれん		447
その他		1,272
無形固定資産合計		1,719
投資その他の資産		
敷金及び差入保証金		13,322
その他		2,534
貸倒引当金		△201
投資その他の資産合計		15,655
固定資産合計		35,538
資産合計		73,881

(百万円)

当第1四半期連結会計期間末
(平成20年6月30日)

負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	16,782
短期借入金	1,200
一年以内償還予定の社債	120
未払法人税等	589
賞与引当金	344
ポイント引当金	764
その他	5,757
流動負債合計	25,558
固定負債	
社債	10
退職給付引当金	2,243
負ののれん	5,543
その他	691
固定負債合計	8,488
負債合計	34,047
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,000
資本剰余金	24,981
利益剰余金	13,743
自己株式	△12
株主資本合計	39,711
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	121
評価・換算差額等合計	121
純資産合計	39,833
負債純資産合計	73,881

(2) 四半期連結損益計算書

(百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)
売上高	39,566
売上原価	28,321
売上総利益	11,245
販売費及び一般管理費	10,398
営業利益	846
営業外収益	
負ののれんの償却額	291
その他	544
営業外収益合計	836
営業外費用	
貸倒引当金繰入額	13
上場関連費用	21
その他	26
営業外費用合計	61
経常利益	1,621
特別利益	
貸倒引当金戻入益	1
ゴルフ会員権売却益	0
特別利益合計	1
特別損失	
固定資産除却損	41
店舗閉鎖費用	19
店舗賃借解約損	65
減損損失	43
過年度ポイント引当金繰入額	63
その他	9
特別損失合計	243
税金等調整前四半期純利益	1,379
法人税等	510
四半期純利益	869

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	1,379
減価償却費	488
減損損失	43
のれん及び負ののれんの償却額	△270
引当金の減少額	△377
受取利息及び受取配当金	△14
支払利息	4
器具・備品受贈益	△50
固定資産除却損	41
店舗閉鎖費用等	84
売上債権の減少額	122
たな卸資産の増加額	△467
仕入債務の減少額	△164
その他	1,164
小計	1,984
利息及び配当金の受取額	8
利息の支払額	△1
法人税等の支払額	△1,488
営業活動によるキャッシュ・フロー	503
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の払い戻しによる収入	500
有形固定資産の取得による支出	△483
敷金・保証金等の増加による支出	△252
敷金・保証金等の減少による収入	113
その他	△140
投資活動によるキャッシュ・フロー	△262
財務活動によるキャッシュ・フロー	
社債の償還による支出	△10
配当金の支払額	△653
財務活動によるキャッシュ・フロー	△663
現金及び現金同等物の減少額	△422
現金及び現金同等物の期首残高	3,097
株式移転による現金及び現金同等物の増加額	7,620
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,295

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前期末残高	3,958	4,315	13,547	△0	21,820
当第1四半期末までの変動額					
株式移転による変動額	△2,958	20,665			17,707
剰余金の配当			△673		△673
四半期純利益			869		869
自己株式の取得				△11	△11
当第1四半期末までの変動額合計	△2,958	20,665	195	△11	17,891
当第1四半期末残高	1,000	24,981	13,743	△12	39,711

(注) 株式会社ココカラファイン ホールディングスは、平成20年4月1日付で株式会社セイジョーとセガミメディクス株式会社の共同持株会社として設立しております。

なお、当第1四半期連結財務諸表は、完全子会社となった株式会社セイジョーの財務諸表を引き継ぎ、期首に設立したものとみなして作成しております。